Captain English Course Ⅰ,Ⅱ Revised
動機の乏しい生徒の文法指導

平原麻子

英語の授業で生徒にもっとも不人気なもの，といえば文法ではないか。それはなぜだろう。

ひたすらルールを説明し練習問題を解く，といった一般によく行われている教授法に問題があることは確かだ。その結果，生徒の中に「いくら文法を勉強しても英語が使えるようにはならない」という意識が生まれる。そして，その意識はある意味正しい。

言語知識をただ注入しても，それだけでは言語使用にはつながらない。文法は覚えることが目的ではなく，その知識を活用しながら英語を理解し産出するためにある，という前提をまず確認しておきたい。本稿では，英語嫌いな生徒のための文法指導のあり方を考える。

■「日本語と英語は違う」ことを意識させる

＊英語は主語を要求する。
＊主語の次には動詞がくる。
＊動詞は時制を意識する。
＊時制には色々な種類がある。

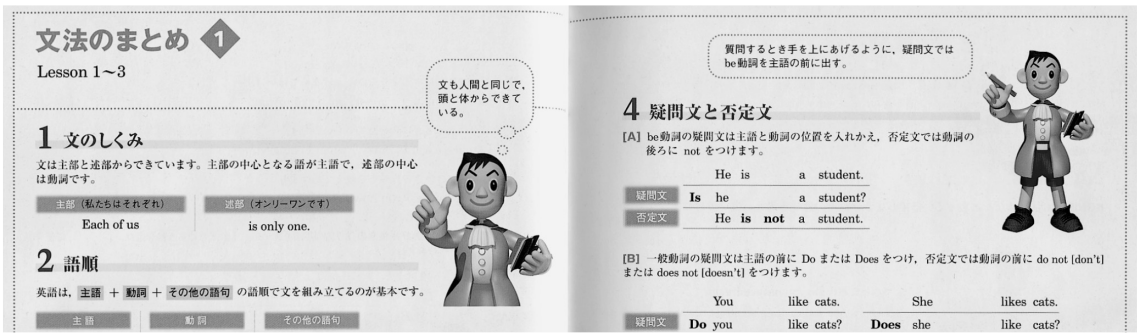
英語が苦手な生徒は，そもそもこういった英語の特徴を理解していない場合が多い。日本語と英語は相当距離のある言語同士なので，これはしかたがない。敷居が高いのである。まず，明示的に日英語の違いを意識させることから始めよう。

教科書 *Captain English Course* シリーズでは「文法のまとめ」ページを設け，文法事項が目で見て理解しやすいような工夫を色々ほどこしてある。たとえば *Captain English Course I Revised* の「文法のまとめ①」(pp. 28–29) を開くと，英語は必ず主語と動詞を必要とし，またその語順も決まっている，ということが視覚的に分かるよう図解してある。疑問文や否定文の作り方も図で示している。(下図参照)

最初はこういったチャートを活用し，パーツごとに単語を入れ替えて音読させ，何も見なくても英文が口をついて出てくるまで練習させよう。

■機械的ドリルを身近なものに

とはいっても，機械的な入れ替え練習を喜んでやる生徒などいない。英語を話してみよう，という気持ちを少しでも引き出すためには，言わせる内容は生徒の実態に即したものでありたい。



Captain English Course I Revised pp. 28–29

ここは生徒の動向にアンテナをはり，彼らが表現したいことにつながるような名詞・動詞・形容詞・副詞を集めておこう。日頃から気軽に生徒と話をし，彼らの生活を知っている教員はこういうときに強い。

こうして集めた単語は品詞ごとに整理して（＝英文を作る時どの位置に現れるかを意識させる）リストに仕立て，年度始めの授業で配布しておく。失くしやすいのでノートに張って，自分専用の語彙ノートを作らせてもよい。自分が使いたい単語をどんどん加えられるようにすると励みになるだろう。このリストを文型練習に活用する。

自分に必要な単語は何度も使っているうちに自然と身についていくものだ。

■本物を使う

教科書の例文はどうしても「作り物の」「死んだ」英語という印象を免れない。時には教科書から離れ，雑誌・広告・漫画・映画・洋楽など生徒に親しみのあるものから例文を探してこよう。教員自身の趣味を活かしながら教材集めをするのは楽しいものである。

たとえば『ドラえもん』を始め相当数の日本の漫画が英訳されている。まさに例文の宝庫である。『少年ジャンプ』の英語版などというものもあり，これを同僚から１冊借りて授業で使ってみたところ，日頃やる気のない生徒たちまでも大変な興奮ぶりで，今までにない集中力で授業に取り組んでいた。ある生徒はその後確実に英語の勉強に目覚め，質問もよくするようになり，１年後にはしっかりした英文が作れるようになっていった。

映画やドラマも生徒の興味をひく格好の教材になる。最近は数多くのシナリオが市販され，DVD には英語字幕まで入っていることが多く，教材研究の助けになってくれるのはありがたい。筆者も色々試してみたが，*Back to the Future* などが英語のレベルも易しく，生徒をひきつける物語の作り方でお奨めできる。

映画の授業ではリスニングから入り，何を伝えたいのか考えさせ，次に日本語字幕でどう訳されているのか確認する。仕上げは音読練習から役になりきった発表活動につなげていく。

洋楽ならばビートルズやカーペンターズが，シンプルながら深みのある歌詞と美しく歌いやすいメロディーで，何年たってもやはりお奨めだ。生徒の受けもよい。最近は日本のヒット曲の英語バージョンなども登場するようになり，授業で使える英語の歌のレパートリーがさらに広がってきた。*Captain English Course II Revised* には，ユーミンの名曲『守ってあげたい』が英語バージョンで収録されていて，時制の確認・接触節・不定詞・仮定法といった文法事項の確認に利用することができる。ひととおり歌詞の内容を勉強したあとは，クラス全員で歌って楽しもう。

You Don't Have to Worry

You don't have to worry, worry.
I'll always be here close to you.
I'll take away your pain and sorrow.
There's nothing I wouldn't do for you.
（以下省略）

こんなのはただのお遊びではないか，これで生徒に力をつけることができるのか，という声もあるだろう。しかし，限られた時間数の授業内でどれだけのことができるだろうか。生徒が力をつけるのは「自ら学ぶ姿勢」を持っている時だけである。教師の仕事は「教え込む」ことではなく，生徒に勉強するきっかけを与えること，勉強は楽しいと思わせること，もっと勉強したいという意欲を植え付けること，と割り切って授業に臨むほうが，はるかに実りのある授業ができるだろう。

＊　　＊　　＊

冒頭でも述べたように，文法の勉強は自ら英語を産出できるようになるための手助けである。問題集を解くため，試験に合格するための単なる修行の時間に陥ってしまわないよう，生徒の立場にたって授業のプロセスを構築したい。

（ひらはら　あさこ・筑波大学附属駒場中・高等学校）